

四半期報告書

(第17期第3四半期)

ケネディクス株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

ケネディクス株式会社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【事業等のリスク】	4
3 【経営上の重要な契約等】	4
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【設備の状況】	8
第4 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
2 【株価の推移】	12
3 【役員の状況】	13
第5 【経理の状況】	14
1 【四半期連結財務諸表】	15
2 【その他】	31
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	32

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第17期第3四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 ケネディクス株式会社

【英訳名】 Kenedix, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川 島 敦

【本店の所在の場所】 東京都港区新橋二丁目2番9号

【電話番号】 03-3519-2530(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 吉 川 泰 司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区新橋二丁目2番9号

【電話番号】 03-3519-2530(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 吉 川 泰 司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間	第16期
会計期間	自 平成22年 1月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 1月1日 至 平成23年 9月30日	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 7月1日 至 平成23年 9月30日	自 平成22年 1月1日 至 平成22年 12月31日
営業収益 (百万円)	27,931	14,786	4,754	5,061	38,589
経常利益 (百万円)	3,356	2,069	438	476	2,202
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失(△) (百万円)	△522	1,052	12	389	△2,542
純資産額 (百万円)	—	—	71,023	71,823	71,147
総資産額 (百万円)	—	—	205,218	194,102	206,228
1株当たり純資産額 (円)	—	—	27,166.32	26,479.78	26,216.42
1株当たり四半期純利益 又は四半期(当期)純損失 金額(△) (円)	△366.16	459.20	7.34	170.14	△1,563.02
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	457.36	—	169.12	—
自己資本比率 (%)	—	—	30.3	31.3	29.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,126	4,730	—	—	23,737
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,894	6,767	—	—	△15,333
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△18,585	△10,995	—	—	△17,481
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	—	16,358	12,700	12,616
従業員数 (名)	—	—	159	168	160

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3 第16期第3四半期連結累計期間及び第16期における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在しますが1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載はしておりません。

また、第16期第3四半期連結会計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載はしておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数(名)	168
---------	-----

(注) 従業員数については、就業人数を記載しており、受入出向者数を含めております。

(2) 提出会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数(名)	50
---------	----

(注) 従業員数については、就業人数を記載しており、受入出向者数を含めております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは、アセットマネジメント事業、不動産投資事業、不動産賃貸事業を主体としており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

(2) 受注実績

当社グループは、受注生産を行っていませんので、受注実績の記載はしていません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
アセットマネジメント事業	1,470	—
不動産投資事業	1,639	—
不動産賃貸事業	1,952	—
合計	5,061	—

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、生産活動の回復や個人消費の持ち直し等により東日本大震災の被害からの回復の動きはみられたものの、円高の長期化や欧州金融危機への懸念などから依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループが属する不動産及び不動産金融業界におきましては、包括的な金融緩和政策の一環として、昨年日本銀行により創設された資産買入等の基金におけるJ-REITを対象資産とした買入限度額が1,100億円まで引き上げられ、買入実施残高が平成23年9月30日現在527億円に上る等の政策的な後押しを受けています。これらを背景に、資金調達環境が改善傾向に転じており、J-REITの公募増資、物件取得が増加する等、不動産市場の流動性は回復局面に入っております。

こうした中、当社グループでは、一昨年来、アセットマネジメントビジネスを当社グループのビジネスの基軸として位置付け、安定的かつ強固な収益構造の構築を図るべく諸施策を着実に実行しており、当第3四半期連結会計期間におきましても順調に当該取り組みを進めております。

特に本邦不動産への投資意欲を有する国内外の投資家に対して、優良案件の発掘と投資機会の提供に注力し、アセットマネジメント業務の機能を強化しながら、継続的な受託資産の増加を図っております。対象不動産の外部売却、アセットマネジメント契約の終了等により受託資産の減少が一時的にあったものの、新規顧客投資家の開拓、優良案件の発掘への取り組みに一層注力した結果、平成23年9月末現在、当社グループが受託するアセットマネジメント受託残高は1兆973億円（前連結会計年度末比6億円、0.1%減）となっております。

財務面におきましては、リファイナンスの実施により借入期間を長期化する等、借入金構成の安定化を積極的に進めてまいりました。

その一方、当社がアセットマネジメント業務を受託し且つ少額共同投資を行っている当社の持分法適用関連会社の不動産ファンド（特別目的会社）が保有資産を売却した結果、損失を計上したこと等に伴い、持分法による投資損失を営業外費用に740百万円計上しております。

この結果、営業収益は前年同四半期比6.5%増の5,061百万円となり、営業利益、経常利益及び四半期純利益はそれぞれ2,135百万円（前年同四半期比25.4%増）、476百万円（前年同四半期比8.5%増）、389百万円（前年同四半期は12百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業につきましては、受託資産の減少が一時的にあったため、管理報酬であるアセットマネジメントフィーは微増にとどまったものの、ブローカレッジフィーなどフィー収入が前年同四半期と比較して増加いたしました。この結果、営業収益は1,700百万円、営業利益は1,108百万円となりました。

②不動産投資事業

不動産投資事業につきましては、自己勘定保有物件の内、たな卸資産の保有期間における賃貸収入を計上した他、バルク案件の物件売却を推進したこと等の結果、営業収益は1,639百万円、営業利益は401百万円となりました。

③不動産賃貸事業

不動産賃貸事業につきましては、自己勘定保有物件の内、長期保有目的不動産として位置付けた固定資産から安定的な賃貸収入を計上した結果、営業収益は1,952百万円、営業利益は765百万円となりました。

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて12,125百万円減少し、194,102百万円となりました。これは主に、自己勘定保有物件が物件売却により8,089百万円減少したこと、投資有価証券が持分法による投資損失の計上、及び匿名組合出資持分の譲渡等により2,591百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計につきましては、前連結会計年度末に比べて12,802百万円減少し、122,278百万円となりました。これは主に、物件売却に伴う有利子負債の減少によるものであります。

純資産合計につきましては、前連結会計年度末に比べて676百万円増加し、71,823百万円となりました。これは主に、為替換算調整勘定が340百万円減少したものの、四半期純利益の計上を中心に利益剰余金が1,043百万円増加したこと、少数株主持分が73百万円増加したことによるものであります。なお、少数株主持分は、主に、当社グループが連結したファンドに対する当社グループ以外の顧客投資家の出資持分であります。

また、物件の取得にあたり連結子会社においてノンリコースローンによる資金調達を行う場合がありますが、当該ノンリコースローンは物件を保有している子会社を対象に融資され、返済原資はその子会社が保有する資産に係るキャッシュフローの範囲内に限定されるため、当社グループの有利子負債への依存の分析にあたっては、当該ノンリコースローンの影響を控除する必要があります。

有利子負債の自己資本に対する比率（デット・エクイティ・レシオ）の推移は以下の通りです。

(単位：百万円)

	平成19年12月期	平成20年12月期	平成21年12月期	平成22年12月期	平成23年9月期
有利子負債①	238,269	202,806	153,038	123,625	112,783
(うちノンリコースローン②)	(120,366)	(78,528)	(68,419)	(69,764)	(60,468)
純資産③	80,488	57,558	54,525	71,147	71,823
現金及び預金④	39,369	11,872	18,291	10,913	10,779
純有利子負債⑤(①-②-④)	78,533	112,404	66,327	42,947	41,535
ノンリコースローン控除後 ネット・デット・エクイティ・レシオ⑤/③(%)	97.6	195.3	121.6	60.4	57.8

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間のキャッシュ・フローについては、営業活動により1,808百万円増加し、投資活動により3,280百万円増加し、財務活動により2,225百万円減少いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第2四半期連結会計期間末に比べ、2,842百万円増加し12,700百万円となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において営業活動の結果、得られた資金は、1,808百万円（前年同四半期比25.4%増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益を769百万円計上したこと、たな卸資産の増減額が495百万円あったことによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において投資活動の結果、得られた資金は、3,280百万円（前年同四半期比134.4%増）となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入が3,595百万円あったことによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間において財務活動の結果、使用した資金は、2,225百万円（前年同四半期比799.7%増）となりました。これは主に、借入金の減少や社債の償還による支出があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,400,000
計	2,400,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,291,186	2,291,186	東京証券取引所 (市場第一部)	(注) 1
計	2,291,186	2,291,186	—	—

(注) 1 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

2 提出日現在発行数には、平成23年11月1日以後提出日までに新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 新株予約権

(2012年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債)

取締役会決議日 (平成21年10月9日)

	第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日)
新株予約権の数	20,933個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(注) 2	60,012株
新株予約権の行使時の払込金額(注) 1, 3	34,881円30銭
新株予約権の行使期間	平成21年11月24日から 平成24年10月26日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(注) 1	発行価格 34,881円30銭 資本組入額 17,441円
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使はできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	—
代用払込みに関する事項	(注) 4
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5
新株予約権付社債の残高(百万円)	2,093

- (注) 1 平成22年8月3日付の公募増資及び平成22年8月4日付の第三者割当増資に伴い、払込金額、発行価格及び資本組入額を調整しております。
- 2 本新株予約権の行使により当社が交付する当社普通株式の数は、行使請求に係る本社債のうち残存額面金額の総額を別記「新株予約権の行使時の払込金額」欄記載の転換価額で除した数（交付株式数）とする。但し、1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。
- 3 転換価額は、本新株予約権付社債の発行後、当社が当社普通株式の時価を下回る価額で当社普通株式を発行し又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合には、次の算式により調整しております。なお、次の算式において、「既発行株式数」は当社の発行済普通株式（当社が保有するものを除く。）の総数であります。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{発行又は処分株式数}}{\text{時価}} \times \text{1株当たりの発行又は処分価額}}{\text{既発行株式数} + \text{発行又は処分株式数}}$$

また、転換価額は、当社普通株式の分割（無償割当てを含む。）又は併合、当社普通株式の時価を下回る価額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されるものを含む。）の発行が行われる場合その他一定の事由が生じた場合にも適宜調整しております。

- 4 新株予約権の行使に際し、当該新株予約権に係る本社債を出資するものとします。
- 5 当社が組織再編行為を行う場合、当社は承継会社等をして、承継会社等の新株予約権の交付をさせるよう最善の努力を尽くすことを定めておりますが、その主な条件は以下のように定めております。
- (1) 交付される承継会社等の新株予約権の数
当該組織再編行為の効力発生日直前において残存する本新株予約権付社債の本新株予約権付社債所持人が保有する本新株予約権の数と同一の数とします。
 - (2) 承継会社等の新株予約権の目的たる株式の種類
承継会社等の普通株式とする。
 - (3) 承継会社等の新株予約権の目的たる株式の数
承継会社等の新株予約権の行使により交付される承継会社等の普通株式の数は、当該組織再編行為の条件を勘案の上、本新株予約権付社債の要項を参照して決定する他、以下に従う。なお、転換価額は、時価を下回る新株発行を行った場合と同様の調整に服する定めがあります。
 - (i) 合併、株式交換又は株式移転の場合には、当該組織再編行為の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに、当該組織再編行為の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に得られる数の当社普通株式の保有者が当該組織再編行為において受領する承継会社等の普通株式の数を受領できるように、転換価額を定める。当該組織再編行為に際して承継会社等の普通株式以外の証券又はその他の財産が交付されるときは、当該証券又は財産の公正な市場価値（独立のフィナンシャル・アドバイザーに諮問し、その意見を十分に考慮した上で、当社が決定するものとする。）を承継会社等の普通株式の時価で除して得られる数に等しい承継会社等の普通株式の数を併せて受領できるようにする。
 - (ii) その他の組織再編行為の場合には、当該組織再編行為の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに、当該組織再編行為の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に本新株予約権付社債の所持人が得ることのできる経済的利益と同等の経済的利益（独立のフィナンシャル・アドバイザーに諮問し、その意見を十分に考慮した上で、当社が決定するものとする。）を受領できるように、転換価額を定める。
 - (4) 承継会社等の新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額又はその算定方法
承継会社等の新株予約権1個の行使に際しては、各本社債を出資するものとし、承継会社等の新株予約権1個の行使に際して出資される財産の価額は、各本社債の額面金額と同額とする。
 - (5) 承継会社等の新株予約権を行使することができる期間
当該組織再編行為の効力発生日又は承継会社等の新株予約権を交付した日のいずれか遅い日から、本新株予約権の行使期間の満了日までとする。
 - (6) 承継会社等の新株予約権の行使の条件
各新株予約権の一部行使はできないものとする。
 - (7) 承継会社等の新株予約権の取得条項
承継会社等の新株予約権の取得条項は定めない。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	2,291,186	—	31,322	—	31,581

(6) 【大株主の状況】

1. 当第3四半期会計期間において、フィデリティ投信株式会社他1社から、以下のとおり、平成23年7月11日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）により平成23年7月8日現在で230,027株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容の確認ができないため、当社としては実質所有株式数の確認ができておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラ ストタワー	21,997	0.96
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	米国 02109 マサチューセッツ州ボストン、デ ヴオンシャー・ストリート82	208,030	9.08
合計	—	230,027	10.04

2. 当第3四半期会計期間において、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社から、以下のとおり、平成23年8月19日付で提出された大量保有報告書により平成23年8月15日現在で132,933株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容の確認ができないため、当社としては実質所有株式数の確認ができておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
住友信託銀行株式会社	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号	17,215	0.75
中央三井アセット信託銀行株式 会社	東京都港区芝三丁目23番1号	109,439	4.78
中央三井アセットマネジメント 株式会社	東京都港区芝三丁目23番1号	2,699	0.12
日興アセットマネジメント株式 会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号 ミッドタウ ン・タワー	3,580	0.16
合計	—	132,933	5.80

3. アンダーソン・毛利・友常法律事務所を代理人とするオレンジ・キャピタル・エルエルシーから、以下のとおり、平成23年5月19日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）により平成23年5月16日現在で166,876株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容の確認ができないため、当社としては実質所有株式数の確認ができておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
オレンジ・キャピタル・エルエ ルシー (Orange Capital LLC)	ニューヨーク、アベニュー・オブ・アメリ カズ1370、23階、NY10019	166,876	7.28
合計	—	166,876	7.28

4. ホワイト&ケース法律事務所を代理人とするエスエーシー・キャピタル・アドバイザーズ・エルピーから、以下のとおり、平成22年11月15日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）により平成22年11月9日現在で172,810株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容の確認ができないため、当社としては実質所有株式数の確認ができておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
エスエーシー・キャピタル・アドバイザーズ・エルピー (S.A.C.Capital Advisors,L.P.)	米国コネチカット州06902、スタンフォード、カミングス・ポイント・ロード72	172,810	7.54
合計	—	172,810	7.54

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年6月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式2,291,186	2,291,186	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	2,291,186	—	—
総株主の議決権	—	2,291,186	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2株(議決権2個)含まれております。

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	26,540	24,750	24,250	17,050	15,970	14,900	16,840	16,040	13,420
最低(円)	20,240	20,760	13,410	14,180	12,600	11,780	13,800	11,930	8,740

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の様動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	—	田中 晃	平成23年8月31日

第5 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,779	10,913
信託預金	2,961	3,327
営業未収入金	2,073	1,642
販売用不動産	41,263	43,006
買取債権	1,599	1,618
未収還付法人税等	301	319
繰延税金資産	108	99
その他	1,385	2,200
貸倒引当金	△396	△414
流動資産合計	60,076	62,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	46,557	48,716
減価償却累計額	△2,290	△1,828
建物及び構築物（純額）	44,267	46,887
土地	67,716	71,511
その他	161	534
減価償却累計額	△108	△103
その他（純額）	53	430
有形固定資産合計	112,037	118,830
無形固定資産		
その他	52	59
無形固定資産合計	52	59
投資その他の資産		
投資有価証券	16,850	19,442
出資金	435	429
長期貸付金	569	672
繰延税金資産	324	343
その他	3,796	3,991
貸倒引当金	△42	△252
投資その他の資産合計	21,934	24,626
固定資産合計	134,025	143,515
資産合計	194,102	206,228

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	399	348
短期借入金	5,328	7,577
1年内返済予定の長期借入金	15,880	21,216
1年内償還予定の社債	300	1,750
未払法人税等	405	1,031
預り敷金	1,278	1,449
賞与引当金	62	—
災害損失引当金	174	—
その他	1,743	3,135
流動負債合計	25,572	36,508
固定負債		
社債	3,693	6,793
長期借入金	87,580	86,288
繰延税金負債	1,785	1,880
退職給付引当金	63	48
長期預り敷金	3,208	3,207
その他	372	354
固定負債合計	96,705	98,571
負債合計	122,278	135,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,322	31,322
資本剰余金	31,581	31,581
利益剰余金	△1,550	△2,594
株主資本合計	61,352	60,308
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△184	△84
為替換算調整勘定	△498	△157
評価・換算差額等合計	△682	△242
少数株主持分	11,153	11,080
純資産合計	71,823	71,147
負債純資産合計	194,102	206,228

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
営業収益	27,931	14,786
営業原価	17,951	6,746
営業総利益	9,979	8,039
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	97	62
役員報酬	179	225
給料及び賞与	798	789
賞与引当金繰入額	53	62
支払手数料	529	359
のれん償却額	206	—
その他	970	876
販売費及び一般管理費合計	2,835	2,376
営業利益	7,143	5,663
営業外収益		
受取利息	63	41
受取配当金	42	19
持分法による投資利益	40	—
消費税等簡易課税差額収入	325	218
還付消費税等	—	238
社債償還益	58	—
その他	56	87
営業外収益合計	587	606
営業外費用		
支払利息	3,412	3,089
持分法による投資損失	—	776
支払手数料	469	258
株式交付費	331	—
その他	161	75
営業外費用合計	4,374	4,200
経常利益	3,356	2,069
特別利益		
固定資産売却益	43	372
投資有価証券売却益	0	—
貸倒引当金戻入益	—	155
負ののれん発生益	30	—
その他	0	31
特別利益合計	74	559
特別損失		
固定資産売却損	435	—
投資有価証券売却損	—	190
投資有価証券評価損	9	—
減損損失	1,068	83
関係会社整理損	554	—
災害による損失	—	※1 323
その他	91	27
特別損失合計	2,160	625

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	1,271	2,003
匿名組合損益分配額	16	0
税金等調整前四半期純利益	1,254	2,003
法人税等	*2 1,390	*2 499
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,503
少数株主利益	387	451
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△522	1,052

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
営業収益	4,754	5,061
営業原価	2,211	2,188
営業総利益	2,542	2,873
販売費及び一般管理費		
役員報酬	66	75
給料及び賞与	229	216
賞与引当金繰入額	53	62
支払手数料	149	98
その他	341	285
販売費及び一般管理費合計	839	737
営業利益	1,703	2,135
営業外収益		
受取利息	47	10
持分法による投資利益	46	—
消費税等簡易課税差額収入	67	96
社債償還益	49	—
その他	42	29
営業外収益合計	253	136
営業外費用		
支払利息	1,103	964
持分法による投資損失	—	740
支払手数料	75	78
株式交付費	331	—
その他	7	11
営業外費用合計	1,518	1,795
経常利益	438	476
特別利益		
固定資産売却益	—	292
関係会社整理損失引当金戻入額	16	—
その他	0	14
特別利益合計	17	307
特別損失		
持分変動損失	38	—
災害による損失	—	※1 12
その他	3	1
特別損失合計	41	13
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	414	769
匿名組合損益分配額	2	0
税金等調整前四半期純利益	412	769
法人税等	※2 271	※2 241
少数株主損益調整前四半期純利益	—	528
少数株主利益	127	138
四半期純利益	12	389

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,254	2,003
減価償却費	944	1,015
減損損失	1,068	83
のれん償却額	206	—
買取債権回収損益及び譲渡損益 (△は益)	△87	—
匿名組合投資損益 (△は益)	△3	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△27
賞与引当金の増減額 (△は減少)	53	62
災害損失	—	323
受取利息	△63	△41
支払利息	3,412	3,089
持分法による投資損益 (△は益)	△40	776
固定資産売却損益 (△は益)	—	△372
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	190
売上債権の増減額 (△は増加)	△638	△430
仕入債務の増減額 (△は減少)	6	51
たな卸資産の増減額 (△は増加)	11,433	1,743
買取債権の増減額 (△は増加)	—	18
買取債権の回収及び譲渡による収入	1,418	—
匿名組合出資金の増減額 (△は増加)	—	437
匿名組合出資金の分配金受取による収入	750	—
その他	△371	465
小計	19,339	9,389
利息及び配当金の受取額	133	77
利息の支払額	△2,462	△3,512
災害損失の支払額	—	△149
法人税等の支払額	△944	△1,393
法人税等の還付額	1,060	318
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,126	4,730
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,230	△822
有形固定資産の売却による収入	6,926	6,967
無形固定資産の取得による支出	△35	△6
貸付けによる支出	△46	—
貸付金の回収による収入	—	322
投資有価証券の取得による支出	△1,054	△95
関係会社株式の取得による支出	△499	△196
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,120	—
その他	△1,835	597
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,894	6,767

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	5,128	—
短期借入金の返済による支出	△14,680	—
短期借入金の増減額 (△は減少)	—	△2,249
長期借入れによる収入	22,795	21,031
長期借入金の返済による支出	△31,099	△25,241
株式の発行による収入	14,738	—
社債の発行による収入	100	1,498
社債の償還による支出	△16,227	△6,050
少数株主からの払込みによる収入	1,252	2
少数株主への配当金の支払額	△15	△48
少数株主への分配による支出	△637	△298
その他	60	361
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,585	△10,995
現金及び現金同等物に係る換算差額	65	△317
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,287	184
現金及び現金同等物の期首残高	21,665	12,616
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△19	△99
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 16,358	※1 12,700

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間
(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1 連結の範囲の変更

(1) 連結の範囲の変更

第1四半期連結会計期間において、匿名組合KRF38他1社は新規設立したことにより、連結子会社を含めております。なお、前連結会計年度において連結子会社を含めていた(有)KRF11は重要性が低下したこと、ジャパンエステートファンド特定目的会社は清算終了したこと、ケイダブリュー・インベストメント(有)は当社の連結子会社による吸収合併により消滅したことにより、それぞれ連結子会社から除外しております。

当第3四半期連結会計期間において、匿名組合KRF39は実質的な支配関係が認められることにより、連結子会社を含めております。

(2) 変更後の連結子会社の数

63社

2 持分法適用の範囲の変更

(1) 持分法適用関連会社の変更

第1四半期連結会計期間において、(株)サンフェルミン他2社は清算終了したこと、(同)CKRF2他3社は持分を譲渡したことにより、それぞれ持分法適用関連会社から除外しております。

第2四半期連結会計期間において、初島(同)他6社は清算終了したこと、匿名組合ワンダーランド・ツー他1社は匿名組合が終了したこと、(同)CKRF8は持分を譲渡したことにより、それぞれ持分法適用関連会社から除外しております。

当第3四半期連結会計期間において、モデラート・キャピタル(有)は清算終了したことにより、持分法適用関連会社から除外しております。

(2) 変更後の持分法適用関連会社の数

48社

3 会計処理基準に関する事項の変更

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ5百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は19百万円減少しております。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
<p>(四半期連結損益計算書関係)</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、「その他」に含めて表示しておりました特別利益の「貸倒引当金戻入益」(前第3四半期連結累計期間0百万円)については、重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記しております。</p> <p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、区分掲記しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「のれん償却額」(当第3四半期連結累計期間は△23百万円)については、重要性が乏しくなったため、当第3四半期連結累計期間より営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しております。</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、「その他」に含めて表示しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「固定資産売却損益(△は益)」「投資有価証券売却損益(△は益)」(前第3四半期連結累計期間はそれぞれ392百万円、△0百万円)、投資活動によるキャッシュ・フローの「貸付金の回収による収入」(前第3四半期連結累計期間は33百万円)については、重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記しております。</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、総額表示しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「買取債権回収損益及び譲渡損益(△は益)」及び「買取債権の回収及び譲渡による収入」(当第3四半期連結累計期間はそれぞれ△250百万円、269百万円)は、表示科目の見直しにより、当第3四半期連結累計期間より営業活動によるキャッシュ・フローの「買取債権の増減額(△は増加)」として純額表示しております。</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、総額表示しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「匿名組合投資損益(△は益)」「匿名組合出資金の分配金受取による収入」及び「その他」(当第3四半期連結累計期間はそれぞれ181百万円、305百万円、△50百万円)は、表示科目の見直しにより、当第3四半期連結累計期間より営業活動によるキャッシュ・フローの「匿名組合出資金の増減額(△は増加)」として純額表示しております。</p> <p>前第3四半期連結累計期間において、総額表示しておりました財務活動によるキャッシュ・フローの「短期借入れによる収入」及び「短期借入金の返済による支出」(当第3四半期連結累計期間はそれぞれ2,360百万円、△4,609百万円)は、期間が短く、かつ回転が速い項目であるため、当第3四半期連結累計期間より財務活動によるキャッシュ・フローの「短期借入金の増減額(△は減少)」として純額表示しております。</p>

当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
<p>(四半期連結損益計算書関係)</p> <p>前第3四半期連結会計期間において、「その他」に含めて表示しておりました特別利益の「固定資産売却益」(前第3四半期連結会計期間0百万円)については、重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より区分掲記しております。</p> <p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
(一般債権の貸倒見積高の算定方法) 当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。
(棚卸資産の評価方法) たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
(税金費用の計算) 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年12月31日)
<p>1 偶発債務</p> <p>当社グループは、(同)ヘルスケア・ワン他3社に対して、796百万円を上限として7年間賃料保証をする旨の契約を締結しております。</p> <p>当社グループは、(同)トランザムアルファに対して、月額64百万円を上限として5年間賃料保証をする旨の契約を締結しております。</p>	<p>1 偶発債務</p> <p>同左</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)						
<p>※1</p>	<p>※1 災害による損失</p> <p>東日本大震災による損失額であり、内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">復旧費用等</td> <td style="text-align: right;">149百万円</td> </tr> <tr> <td>災害損失引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">174</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">323</td> </tr> </table>	復旧費用等	149百万円	災害損失引当金繰入額	174	計	323
復旧費用等	149百万円						
災害損失引当金繰入額	174						
計	323						
<p>※2 当第3四半期連結累計期間に係る法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額については、当該科目を一括して記載しております。</p>	<p>※2 同左</p>						

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)		
<p>※1</p>	<p>※1 災害による損失</p> <p>東日本大震災による損失額であり、内容は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">復旧費用等</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> </table>	復旧費用等	12百万円
復旧費用等	12百万円		
<p>※2 当第3四半期連結会計期間に係る法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額については、当該科目を一括して記載しております。</p>	<p>※2 同左</p>		

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金勘定	現金及び預金勘定
14,605百万円	10,779百万円
信託預金	信託預金
3,411	2,961
計	計
18,016	13,741
3か月超定期預金	3か月超定期預金
△100	△100
担保に供している預金等	担保に供している預金等
△528	△232
使途制限付信託預金(注)	使途制限付信託預金(注)
△1,029	△708
16,358百万円	12,700百万円
(注)テナントから預っている敷金保証金の返還のために留保されている信託預金等	(注)テナントから預っている敷金保証金の返還のために留保されている信託預金等

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	2,291,186

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	不動産投資 アドバイザー リー事業	不動産投資 事業	アセットマ ネジメント 事業	債権投資 マネジメン ト事業	計	消去又は 全社	連結
営業収益							
(1) 外部顧客に 対する営業収益	549	3,226	832	144	4,754	—	4,754
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	117	—	280	—	397	(397)	—
計	666	3,226	1,112	144	5,151	(397)	4,754
営業利益又は営業損失(△)	336	987	710	△30	2,004	(301)	1,703

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	不動産投資 アドバイザー リー事業	不動産投資 事業	アセットマ ネジメント 事業	債権投資 マネジメン ト事業	計	消去又は 全社	連結
営業収益							
(1) 外部顧客に 対する営業収益	1,492	23,086	2,755	596	27,931	—	27,931
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	188	—	968	—	1,157	(1,157)	—
計	1,681	23,086	3,724	596	29,088	(1,157)	27,931
営業利益	858	4,611	2,390	83	7,943	(799)	7,143

(注) 1 事業区分の方法

当社グループの事業内容を勘案しております。

2 各事業の主な内容

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 不動産アドバイザーリー事業 | 不動産売買の仲介、不動産投資の案件発掘、投資実行のコンサルティング及び不動産ファンドへの共同投資 |
| (2) 不動産投資事業 | 自己勘定による不動産投資 |
| (3) アセットマネジメント事業 | 不動産の管理及び投資対象物件の価値上昇のためのコンサルティング |
| (4) 債権投資マネジメント事業 | 債権売買の仲介、債権投資の案件発掘、投資実行のコンサルティング及び自己勘定による債権投資 |

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)及び前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)及び前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業本部及び連結子会社等において取り扱う商品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部及び連結子会社等を基礎とした商品・サービス別のセグメントから構成されており、「アセットマネジメント事業」、「不動産投資事業」及び「不動産賃貸事業」の3つを報告セグメントとしております。

「アセットマネジメント事業」は、不動産及び不動産担保付債権等への投資戦略の立案・投資アドバイス、投資案件の運営・管理等を行っております。「不動産投資事業」は、主に当社組成ファンド等へのウェアハウジングを目的とした自己勘定による不動産及び不動産担保付債権等への投資を行っております。

「不動産賃貸事業」は、自己勘定による長期保有の不動産投資を行っております。

2. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	アセットマネ ジメント事業	不動産投資 事業	不動産賃貸 事業			
営業収益						
(1) 外部顧客に対する 営業収益	3,561	5,386	5,837	14,786	—	14,786
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	696	—	—	696	△696	—
計	4,257	5,386	5,837	15,482	△696	14,786
セグメント利益	2,674	1,306	2,183	6,164	△501	5,663

(注) 1. セグメント利益の調整額△501百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であ

ります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	アセットマネ ジメント事業	不動産投資 事業	不動産賃貸 事業			
営業収益						
(1) 外部顧客に対する 営業収益	1,470	1,639	1,952	5,061	—	5,061
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	230	—	—	230	△230	—
計	1,700	1,639	1,952	5,291	△230	5,061
セグメント利益	1,108	401	765	2,274	△139	2,135

(注) 1. セグメント利益の調整額△139百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年12月31日)
26,479円78銭	26,216円42銭

2. 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり
四半期純利益金額

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額(△) △366円16銭	1株当たり四半期純利益金額 459円20銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在しますが1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額 457円36銭

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失(△) (百万円)	△522	1,052
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△) (百万円)	△522	1,052
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,427,677	2,291,186
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた四半期純利益調整額の主要な内訳 (百万円)		
支払利息(税額相当額控除後)	—	23
四半期純利益調整額 (百万円)	—	23
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数 (株)	—	60,012
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	—	—

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 7円34銭	1株当たり四半期純利益金額 170円14銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額 169円12銭

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 (百万円)	12	389
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	12	389
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,751,584	2,291,186
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた四半期純利益調整額の主要な内訳 (百万円)		
支払利息 (税額相当額控除後)	—	7
四半期純利益調整額 (百万円)	—	7
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数 (株)	—	60,012
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月 8日

ケネディクス株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 金野栄太郎 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山田嗣也 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田裕士 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケネディクス株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケネディクス株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月7日

ケネディクス株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 金野栄太郎 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山田嗣也 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 太田裕士 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケネディクス株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケネディクス株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【会社名】	ケネディクス株式会社
【英訳名】	Kenedix, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川 島 敦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都港区新橋二丁目2番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長川島敦は、当社の第17期第3四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。